

心不全に対する、あたらしい治療法 - ペースメーカーによる 心臓再同期療法 -

《心不全症状とは?》

心臓はポンプとして働いていますが、その能力が落ちると、息切れ、疲労感、四肢の冷感、肌の黒ずみ、足の甲やすねのあたりがむくみ、などの症状がでます。また、肺に血がたまり水分が肺にしみだすと、さらに進むと酸欠状態になるので、安静にしているでも呼吸が困難になります。

《原因としては?》

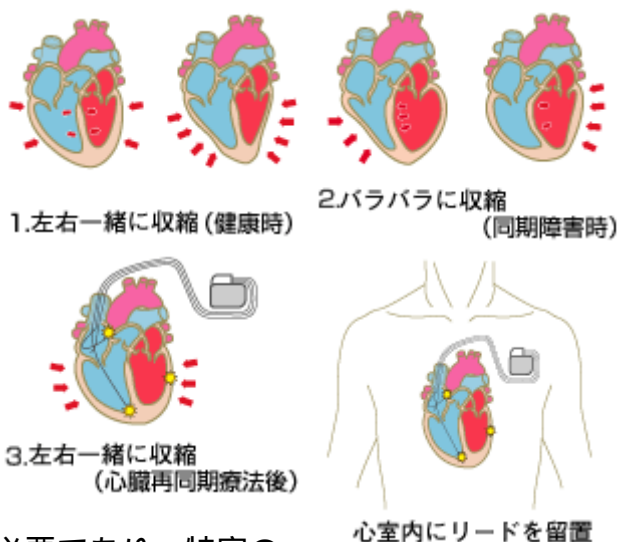
心筋梗塞や心筋症、また高血圧や不整脈でも心不全になります。

《治療法は?》

従来も、そして現在も心不全に対しての治療は、薬物治療が中心で、限られた症例で心臓手術、心臓移植などが行われます。

《新しい治療法》

最近欧米で、ペースメーカーを使った新しい心不全の治療が開発、実用化されました。日本でも2004年4月から保険認可されました。この治療方法は『施設認定』が必要であり、特定の病院に限定されます。



この治療の原理は、次のようなものです。

“心不全の人の一部に、心臓右心室と左心室の収縮タイミングがずれている”場合があります。そのために、弱った心臓の効率をさらに悪くしているということがわかってきました。そのずれを解消することが出来れば心機能が改善する可能性が出てきます。その方法として、右心室と左心室にそれぞれペースメーカーで同時に刺激して収縮タイミングのずれを解消するようにする“調整”してあげるものです。これが心臓再同期療法と呼ばれるものです。この治療は従来の薬物治療のみではなかなか症状がとれなかった重症心不全の人にとって新たな治療の道が開けたものといえます。しかしすべての心不全の人に有効とまでは行かず、この新しい治療法を受けて心機能が回復する人の割合は70%程度とされています。

当院循環器科は2007年1月より「両室ペースメーカー移植術」の施設認定を取得し、重症心不全の新たな治療法として患者様に治療を提供していきます。

『呉心臓センター』は、循環器科、心臓血管外科、救命救急部、手術部、地域医療連携室などの協力で、地域で唯一、心臓当直医師による24時間診療体制を行っています。

『呉心臓センター』は休日、夜間の診療体制に特に力をいれていますが、日常診療でも循環器科、心臓血管外科は、芸南地域で最大数の心臓カテーテル治療、心臓大血管手術を提供しています。

心臓疾患の緊急時は「呉心臓センター」へ

時間内(平日8時30分~17時15分)・救急外来受付 (0823) 22-3111 内線3000番

問い合わせ先

〒737-0023 広島県呉市青山町3番1号

独立行政法人国立病院機構

呉医療センター・中国がんセンター 地域医療連携室

TEL (0823) 22-3111

ホームページ <http://www.kure-nh.go.jp/>



当院のロゴマークは『なだらかな海』と『爽やかな風』の自然な調和を表現しております。

